

令和6年度彩の国あんしんセーフティネット事業

就労支援事業所連絡会

実施日	令和6年10月23日(水) ※生活困窮者自立支援事業受託社協連絡会議と合同開催
参加者	39名
発表者	① 志木市社協 三原氏 ② 所沢市社協 林氏 ③ 真寿園 新井氏 川越市自立 高橋氏 ④ あかつき 飯塚氏 深谷市自立 中條氏



意見交換の様子

内容

- 事務局説明(セーフティ就労支援実績、生活困窮者自立支援事業における就労支援について)
- 自立相談支援機関(受託社協)の取組
 - 志木市での就労準備支援事業について
三原氏のコメント～社協としての強みと連携の工夫～
 - 事業開始2年目で、試行錯誤をしながら取り組んでいる。
 - 所轄課(市の担当課)を巻き込む工夫をしている。→委託して終わり、ではなく「一緒に」やっていくために興味を持ってもらえるよう積極的に報告をする。
 - 高齢分野、障がい分野等から異動した職員が集まり受託した強みを生かす。
 - 事業周知の場の確保(社協本部 SNS での発信等)をしている。
 - あったかサポート「リーチ！」について(ひきこもり支援)
林氏のコメント～社協としてひきこもり支援を行うということ～
 - ひきこもり支援はまだ支援制度が確立していないからこそ社協の出番！
 - 地域の情報を把握する民生委員の皆さんとの連携が重要。
 - ひきこもり支援サポーター活動
 - 職員だけでは支えきれないので、地域の協力者を増やすために民生委員や地域福祉サポーター向けに養成講座を開いた。
 - 就労体験の取組→セーフティ就労支援等、理解ある皆さんの協力により実施
 - 広報活動→事業所だけでは伝えきれない情報を社協の発信力を活かす

3. セーフティ就労支援の実践報告

① 就労経験ゼロから一歩踏み出したケース

→1 か月ごとの振り返りでモチベーション維持と自信につながった。対象者に寄り添って日数や時間等柔軟に対応。就労体験で仕事に対して自信を深めたため、アルバイト求人への応募につながった。

② 就労準備支援利用から就労体験につながったケース

→何ができて何ができないか見えてきた。人とかかわることへの不安が消えた。仕事への理解につながった。障害手帳申請を行うことができた。短期でのアルバイトをすることができた。

4. 意見交換

実践報告を聞いての感想や、他市での取組の共有などを行った。

参加者の声

- ・就労支援の現状を知ることができてよかった。
- ・ひきこもりの方がこれほど多いのかと驚いた。すべての方を救えないとしても一人でも多くの方を…と感じた。
- ・自分の施設でどんな支援ができるのか考えることができた。収入という形で残らないのに若い人たちにもモチベーションがあるのか？と思っていたが、本人の不安解消や成功体験が大切だと知った。
- ・成功事例を聞くことができてよかった。障害手帳取得に向けて本人に伝えられたことはすごいと思った。
- ・いろいろな支援を聞くことができ、就労支援事業に興味がさらにもてた。
- ・依頼する方、される方、両方の工夫している点が知れてよかった。
- ・(意見交換で)本音で話すことができ、有意義な時間を持つことができた。
- ・他市のひきこもり支援や就労準備支援は自市にないものが多数あり、今後提案していけたらと思う。
- ・市町村で受入施設の数にばらつきがあるので、この資源を増やすことと広域での取組が必要だと思った。